

## 島根県竹島・北方領土問題教育者会議会長賞

### 国際交流で学んだこと

雲南市立三刀屋中学校 一年 原 向日葵

私は、竹島問題を社会の授業で学んで韓国と日本の主張がすれ違っていて、お互いが納得できる状況ではないことを知りました。だからといって、それを簡単に解決できるわけではないことも知りました。お互いの意見が食い違っているからです。そこで私は、お互いにすれ違う主張を否定したり、聞かなかつたりしたら何も変わらないと思いました。そう考えた理由は、国際文化交流のイベントに参加したからです。

私は、令和三年、雲南市国際文化交流協会主催のさくらスピーチコンテストという、英語で自分の町を紹介するイベントに出場しました。さくらスピーチコンテストでは、自分の町のいいところを紹介します。雲南市の中のいろいろないいところを英語で紹介し合います。そうすると、同じ市に住んでいても知らないいいところを知ることができます。私が紹介した三刀屋町のいいところは、自然が豊かなことや三刀屋町に住む人の温かさです。

また、令和四年の八月に、コンテスト主催者からの紹介で、「外国出身の人たちと日本の遊び、外国の遊びで交流しよう!」というイベントに参加しました。そこには、雲南市の学校でALTをしておられる方や、島根県に留学で来ておられるいろいろな国の方がおられました。アメリカ、中国などたくさんの方のおられました。小学生は数人いましたが、中学生は一人だったので最初は誰とも話せず、とても不安でした。いろいろなゲームをする時にペアになった方の話す言葉は全然わからなかったけど、ジェスチャーや表情で協力してゲームをしていくうちに、とても楽しくなりました。

こんなに楽しい交流をすることができると、日韓関係が悪いからといって、以前はたくさんできていた交流の機会が、現在は減っていると授業で習い、とてももったいないと思いました。もし、交流を深めることができれば、竹島についても意見を交換できる機会にもなると思います。そして、韓国の意見も聞けるし、日本の領土だという主張に納得してもらええると思います。

たとえ言語が違っても、年の差があっても、お互いがコミュニケーションをとり、相手を理解しようと思うだけで、ちゃんと伝わるのが外国の方との触れ合いの機会で分かりました。そして、争いや言い合いで解決するのではなく、これからも仲良くできるように平和的に解決するべきです。そのためには、日本も韓国もお互いの意見を聞き合わないといけません。今のままでは、交流もどんどん減ってしまうと思います。

そして、日本政府と韓国政府だけの問題だけではなく、たくさんの方が竹島を返してほしいと求めていることも知りました。だから、少しずつ交流をして政府の人たちだけではなく、私たち市民も竹島問題や北方領土問題などの領土問題に関心を持ち、日本はちゃんと根拠を持って日本の領土だと主張できるようにしなければいけないと思います。

これからも私は、領土問題についてもっと知り、韓国側の主張も知り、家族や友達とたくさん話をしてみて、いろいろな意見を聞いてみたいと思います。

私は、今年もさくらスピーチコンテストに参加します。英語を話せると、普段話すことや交流することのできない海外の方、友達、知らない人にもみんなに自分の意見を聞いてもらうことができます。たくさんの方の意見を聞くことで、自分一人では思いつかないことを知り、いろいろな視点で一つの物事を見ることがができます。たくさん交流をして、お互いの国を尊重し合えるようになればいいなと思います。そうすれば、平和的に領土問題を解決できると思います。これからも他の国の人と仲良く交流できる機会に積極的に参加していきたいです。

## 北方領土問題で思うこと

雲南市立三刀屋中学校 三年 堀 江 羽 紗

私は最初竹島について何も知らなかった。二月二十二日竹島の日のニュースでチラッと名前を聞くくらいのことだった。どんな問題を抱えているのか、今よりもっと前はどうかだったのか、全く何もわからなかったし、興味を持つことすらなかった。

私は「ジヨバンニの島」の映画や授業を通して、故郷に帰れずに亡くなっていく方々や、船の中からお墓参りをする事としかできない方々がおられるということを知ったとき、悲しさと疑問でいっぱいになった。故郷から追い出されてから何年経っても帰れないという事実が、自分のことのように悲しいということ。確実に日本の領土なのに、元島民の方々はなぜ自分の故郷を自由に行き来できないのか。何十年も経った今でもこの状況は解決できないのはなぜなのだろうか。

そんなことを考えているうちに、島根県民として何かできることはないか、何か解決する方法はないか考えるようになった。

そこで元島民の体験談を読み、世代を超えて島根県から全国の都道府県民に広げる必要があると考えた。一人ひとりが北方領土問題についての関心を高め合い、理解し、力を合わせる事が今、解決に最も必要なことではないかと思う。

北方四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結するという日本の主張に対して、私は、ロシア側は平和条約を本当に締結してくれるのか?と思うた。

第二次世界大戦の結果、北方四島はロシアの領土の一部になるというロシアの主張に対しては第二次世界大戦で勝ったからといって、占領してい

いわけではないと思った。

現在もロシアはウクライナと戦争をしているが、第二次世界大戦以来の大きな戦争になるのではないかと心配されている。テレビをつけるとほぼ毎日ロシアとウクライナの戦争のことが報道されている。テレビで全く関係ない子どもや高齢者が捕まったり、追い出されたりしているのを見ると、北方領土に住む人々が急に追い出され、居場所も失い、食料さえもとにも食べることができなくなったことが重なってくる。ウクライナの人々も、北方領土に住んでいた人々のように自由に自分の国に行き来できなくなるのではないかと心配になった。

私はこの時代に戦争など絶対にはないと思っていた。だからこそ、ロシアとウクライナの戦争がより激しく、より深刻と感じる。そんな戦争をしたら、また多くの犠牲者や貧しい人が出ることも心配している。「ジヨバンニの島」のように自分の親に会えなくなる人がたくさんいる世界になるとなど、今の私には考えることができない。

私は、これから家族や友達だけでなく、徐々にたくさんの人に知ってもらいたいと思う。また、もっとたくさんの人にこの深刻な問題を知ってもらうために、私は今まで以上の呼びかけをしていきたいと思う。

私は、永井隆博士生誕の地、雲南市三刀屋町に住んでいる。博士は「如己愛人」、「平和を」という言葉を残された。博士が生まれ育った土地に住むものとして、亡くなるまで平和を祈り続けられた博士について学習し、平和の心を持つことと、みんなで協力し合うことは特に大切にしてきた。領土問題について学習し、今まで平和が当たり前だと思っていた自分は、とても幸せだと思った。相手の気持ちを考え、お互い助け合うことが平和になることをみんなが考えれば、戦争など起こるはずはないのに、なぜそれができないのかと不思議に思った。だから世界中の人がお互いに協力し合い、平和の心を持つことが必要だと思う。私は、これからも平和について考え続けていきたい。